

夏休みを目前に、みなさんにお話しする機会を得られたので、4月以来のことを振り返ってみたい。

長野高校に赴任して一番印象深いのは、金鷄祭で表現された生徒諸君の情熱だ。本当に胸のすくような金鷄祭だったと思う。そのあと学校を休校にせざるをえない状況にいたったが、生徒会の皆さんも金推の皆さんも事前に何度も私のところに足を運んでくれてうち合わせをしてくれた結果だった。具合が悪くなった方々には本当に申し訳なく思う。昨日、金鷄祭推進の委員長と副委員長が私に挨拶をしに来てくれた。彼らの労をねぎらうことができるとてもうれしい。1・2年生の諸君は自分たちの金鷄祭をどうしていきたいのか、前例にとらわれずに考えていってほしい。

今週の月曜日、本校野球班が夏の大会の第1試合をたたかった。相手は木曽青峰高校、木曽の子供たちの未来を変えるために勝利したいと願っている好チームだった。試合は一回の裏に青峰が1点を先取し、そのリードを覆すことができずに中盤を終えた。6回に本校が2点いれて1点リードするが、すぐに追いつかれるような展開。9回の表に本校が1点を追加し3対2で9回の裏、青峰の攻撃を迎えた。しかし、2アウトまで進んだが満塁となり、最後の最後までどちらが勝つかわからない熱戦を、本校野球班の全員の粘りで、勝利することができた。勝敗を超えて、両チームの一步も引かない頑張りが光ったすばらしいゲームだった。

今朝、ECCの田中さんが校長室にやってきて、大会に出るので、英語スピーチを聞いて

てくださいとのことだった。素晴らしい内容の、聞きほれるようなスピーチだった。昨年も参加して良い成績を取めたが、今年はもっとすばらしいものにしたいので、舞台度胸をつけるため、私の前でスピーチしたいとのこと。こういうことを申し出るのも相当勇気がいることだと思うが、もう、彼女はすでに一つの試練を乗り越えていると感じた。田中さん、これを聞いていると思いますが、あなたは本当にすばらしいから、自信をもってスピーチしてきてください。

弓道班女子は団体の県大会で苦杯をなめた。北信越大会に出場を果たしたが、彼女たちにとっては、北信越大会は雪辱を晴らすための闘いだった。そして、北信越大会で優勝した。このあと壮行会で報告があるが、本当に、こんなことが起きるのかと思った。

私知っているのは皆さんの活動の、本当にごく一部だが、私たちはこんなにもドラマにみちた一瞬一瞬を過ごしている仲間と生活している。どうか皆さんは、友達を大切にするとともに、そのときどきに一筋に、真剣に集中している自分の姿に向き合い、いつまでも忘れないでほしい。それがやがて皆さんの力となって、これから向かう大きな試練にも必ず役立っていくものと思う。特に、3年生は夏を境に受験へと向かっていくところ。これまでに示してくれた情熱を、一つの焦点にあて、残りの高校生活を充実した悔いのないものにしてください。

実は夏は私の好きな季節。皆さんも思いっきり自分のやりたいことに集中する夏にしてほしい。